

平成29年度 学校評価計画表

奈良県立郡山高等学校

教育目標		幅広い知識と教養、正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けさせるとともに、豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的で平和な社会の創造と発展に貢献できる人材の育成を目指す。						総合評価
運営方針		「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。						
○昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標				
進路目標・実現に向けた学習への意識付けはできたものの、早期取り組みは不十分であった。 1・2年次での基礎基本が強固でないため、定着に向けた課題の洗い出しを行い、対策を早急に講ずる。また、教員の授業力向上に向けた取り組みも必要である。		生徒の意欲や思考を引き出す授業改善に努め、主体的・探求的な学びを提供する。		第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。				
		生徒の進路実現を図るため、キャリア教育をさらに充実させる。		進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路を考えさせる。				
		生徒の基本的な生活習慣の確立や自主的な活動を奨励・支援する。		不注意による遅刻の削減に努め、校内外の生活全般にわたってマナーを身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。				
		学習と部活動の両立を図れる指導をめざす。		学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。				
		豊かな人間性の育成に努める。		学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。				
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
学習指導	平素の授業の充実・授業研究の活性化	主体的・対話的で深い学びの実現を図るために授業改善を行う。	教員アンケートにおいて、「主体的・対話的で深い学びを意識した授業研究化が図れた」と答えた教員の割合が70%以上ならA、50%以上ならB、30%以上ならC、30%未満はDとする。					
進路指導	キャリア教育の推進	キャリア教育に関する講演等において社会で活躍している人の話を直接聞き、将来の自己実現に役立たせる。	キャリア教育に関する講演等の感想において、「良かった」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)					
	進路意識の向上	第1学年より、明確な進路目標と高い進路意識を持ち、最後まで第1志望を堅持させる。	センター試験で「7科目を受験した」生徒の割合が70%以上ならA、65%以上ならB、60%以上ならC、60%未満はDとする。(センター試験結果)					
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる局面で挨拶の励行を促す。	挨拶に関するアンケートを生活委員を対象に行い、「教員や来校者に対し挨拶をしている」、「生徒同士で挨拶を交わしている」と答えた生徒の割合が85%以上A、75%以上B、65%以上C、65%未満はDとする。(独自アンケート)					
特別活動	特別活動を通じた豊かな人間形成の育成	学校行事やHR活動、部活動において活力ある生活を実践できる環境を整える。	生徒実態調査により、学校行事やHR活動、部活動を「自主的・自発的に実践することができた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、45%以上ならC、45%未満はDとする。					

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等
人権教育	豊かな人間性の育成を目指した人権教育HRの充実	自他の人権を尊重する資質と能力を身に付けさせるため、アクティブラーニングによる主体的な人権学習を実施する。	全学年で、各学期ともアクティブラーニング的要素を取り入れることができていればA、2つの学年ができていればB、1つの学年のみではC、どの学年もできていない場合はDとする。					
教育相談	予防的、開発的な教育相談活動の充実	教育相談活動をより充実させるための参考となる情報を提供する、教員向け広報紙「相談室より」を毎月発行する。	教員アンケートの結果、「『相談室より』を通して新しい知識や実践のヒントを得た」と答えた教員の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。					
保健体育	生涯を通じ、健康な生活が実践できる力の育成	保健だよりを活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だよりを読んで怪我・疾病予防などに生かされた」と答えた生徒の割合が、60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満はDとする。					
	体力向上を目指した活動の充実	体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。	生徒実態調査において、「新体力テストの結果・体育行事への積極的な参加などを通じて、自己の能力を少しでも高められた」と答えた生徒の割合が、70%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。					
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ビブリオバトル、図書館便り「共慶」、ポスター掲示などをおして、読書活動への意欲を高める。	生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つげられた」と答えた生徒の割合が、60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%以下はDとする。					
環境整備	自主的な活動による美化マナーを向上	美化委員により、校内美化(特に机・ロッカー・靴箱の中、及びロッカー・靴箱の上の整理)を呼びかけ、生徒全員に実践させる。	美化委員が大掃除後に点検を実施し、教室内の整理、ロッカー・靴箱の上の状態を4段階で評価させた時、私物がない状態のクラス数の割合が、80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(独自調査)					
広報・情報	ホームページ、連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステムを活用し、行事の周知により、カウンセリングの日程、育友会の社会見学、大学見学の参加者の増加と満足度を高める。	利用者、参加者に満足度アンケートを行い、「よかった」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。(事後アンケート)					
事務・管理	城内学舎返却に伴う移動、移設、廃棄業務の円滑な進行	備品調査や移設に関わる予算、エアコンの移設計画等の精査、再検討を行う。	返却に伴う予算執行に過不足がなく、スムーズな移転が行えた場合はA、多少の予算不足が生じた場合はB、大きな予算不足が生じた場合はC、移転ができなかった場合はDとする。					